



小中合同対面式 4月18日



和水町立  
三加和中学校  
(和水町板橋  
1001)  
文責：益崎

# 三加和の宝が勢揃い！

## 三加和小・中の オンリーワン

よその学校にはない三加和小中学校のオンリーワン、それが年間通じてたびたび実施される小中合同の交流行事です。上の写真は先日的小中合同対面式の時のものです。ご覧下さい、地域の宝物が勢揃いしています。この宝物を小中の職員で力を合わせて大切に育てていきます。温かみと潤いのある学校を目指していきますので、皆様のご協力をお願いします。

## 四月は人を成長させる

小中一貫教育では、中一ギャップを無くすために、先にも述べたように、小中との間にあった隙が待っていません。それは、中一ギャップを無くしていきながら、一つの目的としていけるように、これまでの自分とセットする「節目」を感じにくくなるように



## 和楽荘まつりから

三月のPTA新聞卒業記念号でも書きましたが、人には三つの幸せがあるといえます。生まれてすぐの「とてももう幸せ」、成長とともに「自分自身でできる幸せ」、そして「他の人のためにしてあげる幸せ」です。中学生の時期はまさに、何事も自分自身の力でできることに喜びを感じるころだと言えます。

去る4月7日、本校の生徒7人が和楽荘まつりにボランティアとして参加しました。中学生もなれば、すでに他の人のために何かをすることに

いよいよです。うれしいことに一年生を見てみると、これまでより大きく成長した様子を感じられます。中一ギャップは無くしても、中一ギャップをモノにするため、この四月、若竹のような伸びに期待しています。



## げに一刻も千金の眺めを 何にたどうべき

「春のうららの隅田川～」の歌い出しで知られる歌曲「花」の一節です。「本当に美しいこの眺めを、いったい何に例えたらいいのだろうか」という意味で、例えようもなく美しい眺めを目にしたときの感動を表しています。もっとも美しい今の季節、学校の前庭の咲きほころぶ花々



目をすくが、一節に浮かぶの頭にでます。



多くの人がそんな気持ちになったり、三加和のしゅうに幸せがあふれるのかもしれない。

## 家庭訪問の思い出

昨年に続き家庭訪問の思い出パート2です。お話が弾みだしたところ、生徒のお母さんが、テーブルに置かれていたコーヒの入ったミタスカップ(小さなコーヒーカー

プ)に手を向けて「どうぞ先生お召し上がりください」と促されました。「それでは遠慮なくいただきます」と、口に運んだカップを傾けるのですが、何も落ちてきません。よく見ると、カップの中でコーヒゼリーがぶるんぶるんと揺れていました。その場はみんなで大笑いして終わりました。その家を出て、次の家庭に着き玄関を開けると、生徒とお母さんが迎えてくれて、「カップを傾けてもコーヒーが落ちて来なかったそうですね」とニコニコした温かい笑顔で話されました。私は顔では笑っていましたが、情報力のすごさに体が凍りつきました。

\*注意：少し話を盛っています。